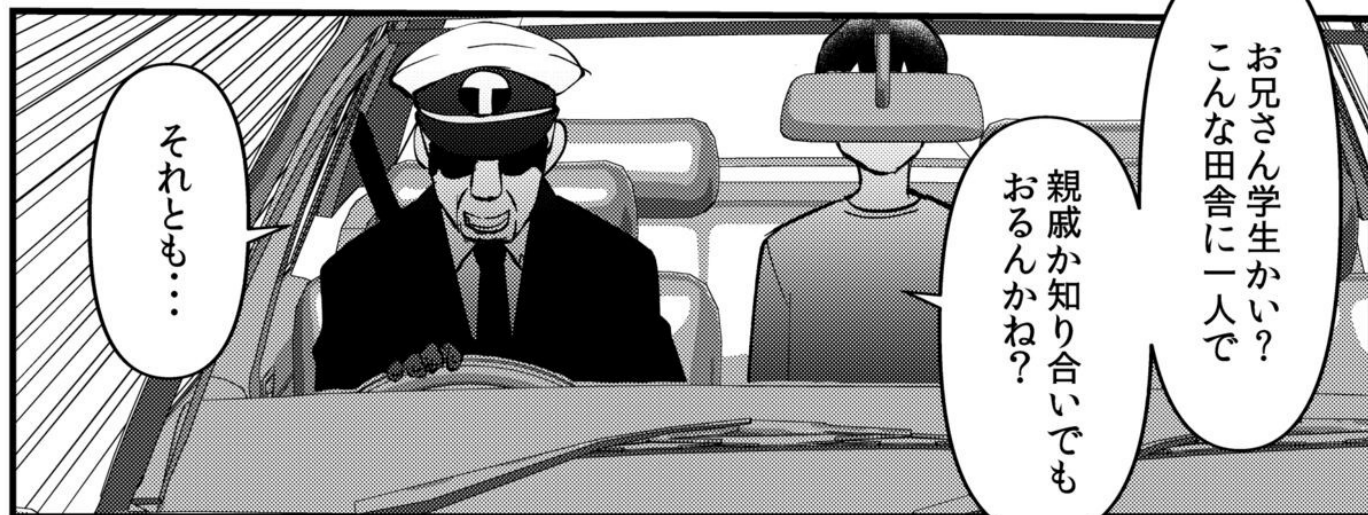
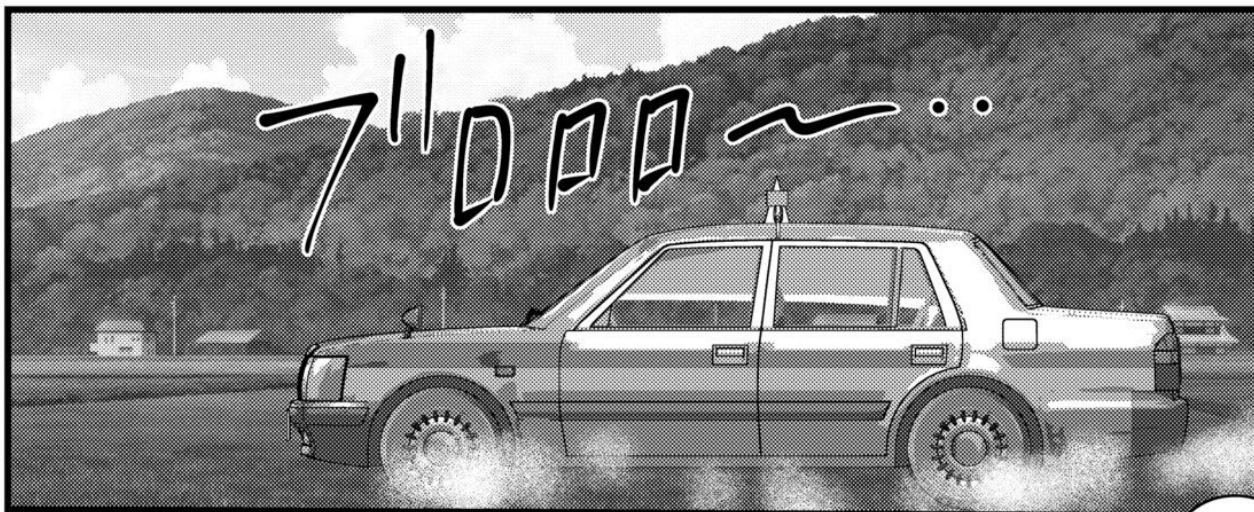






お兄さん学生かい？
こんな田舎に一人で

親戚か知り合いでも
おるんかね？

それとも…



ある人との
約束を果たしに
やってきました

あれから十三年の時流れ
ボクは十八歳になった

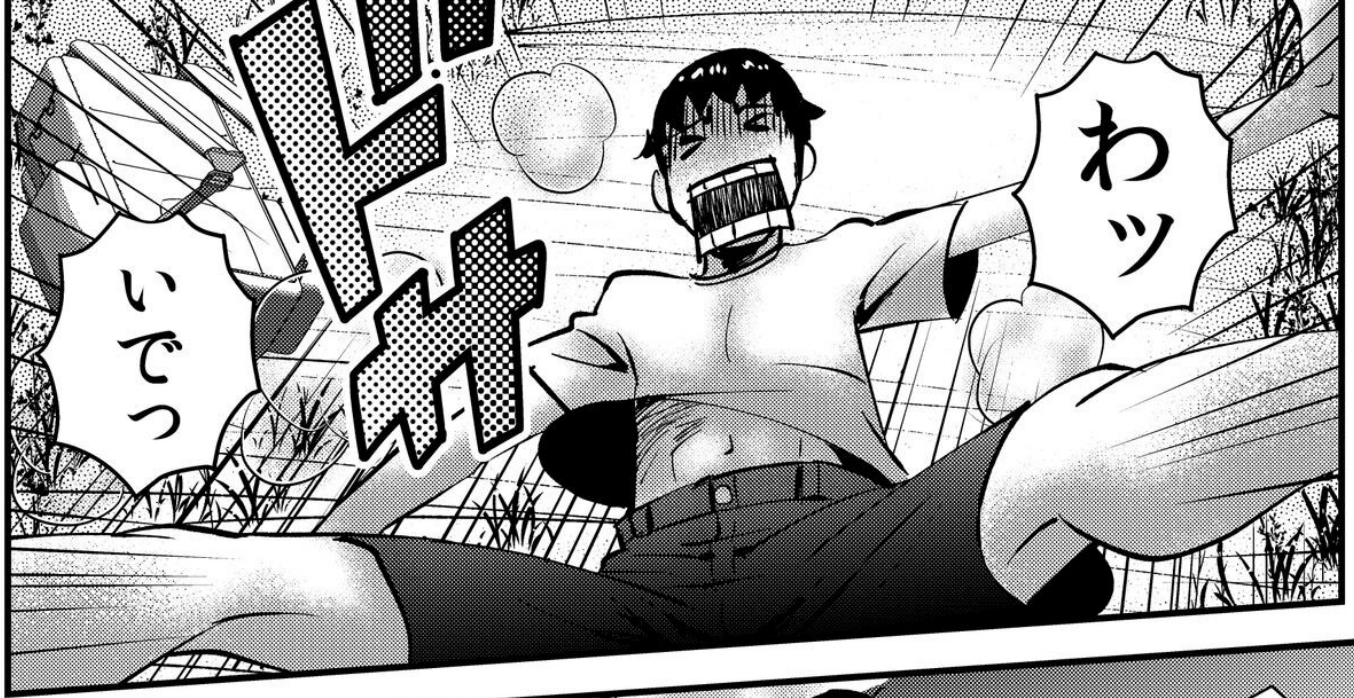
アミちゃんの引越しの日
あの日交わした約束

お正月になったら
会いに行くよ
お小遣いを溜めて
きつと行くから

結局お互いなんの
音沙汰も無く
過ぎ去った十三年間

約束を果たせぬまま
ボクの時間はずっと
止まったままだった













オサム君お風呂
沸いてるから入りな

アミちゃん

これ着替えの
法被と禪

禪の締め方
教えようか

え、ボクも？

まかせなさい
六尺禪の女王が
絞めてあげる

あいや自分でやって
ダメなら呼ぶから

遠慮なさるな
幼馴染じゃん

待って
アミちゃ・

ひっ

あらッ

あらあらあら
何に興奮したの
かな？フッフ

恥ず・見られた
しかも
立ってる処

スマホで調べて
自分で絞めるからッ

ほえ？

ぞんっ





マリッ

ハイハイすぐ終るから
待っててイッペイ

マリ
次オレな



おあゝマリのフエラ
気持ちいい

んじゃ
ヨロシク

みんな下の名前で
呼び合う家族なんだ

さつ
いらつしやい
イッペイ



あうマリ
口に出すぞ

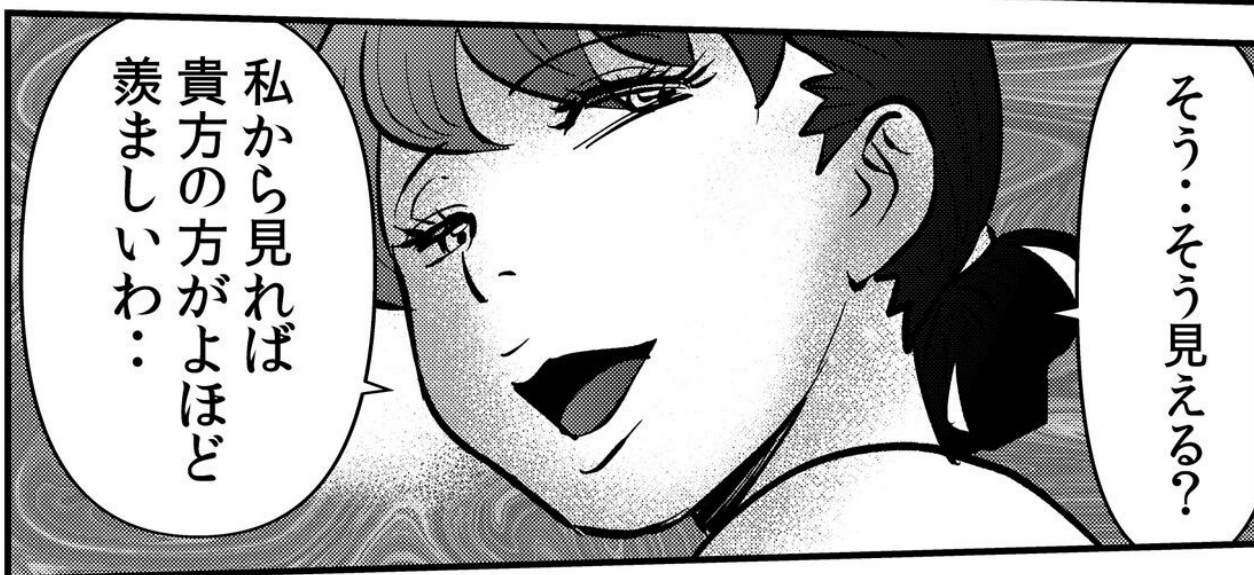
おおくさすが
驚きの吸引力

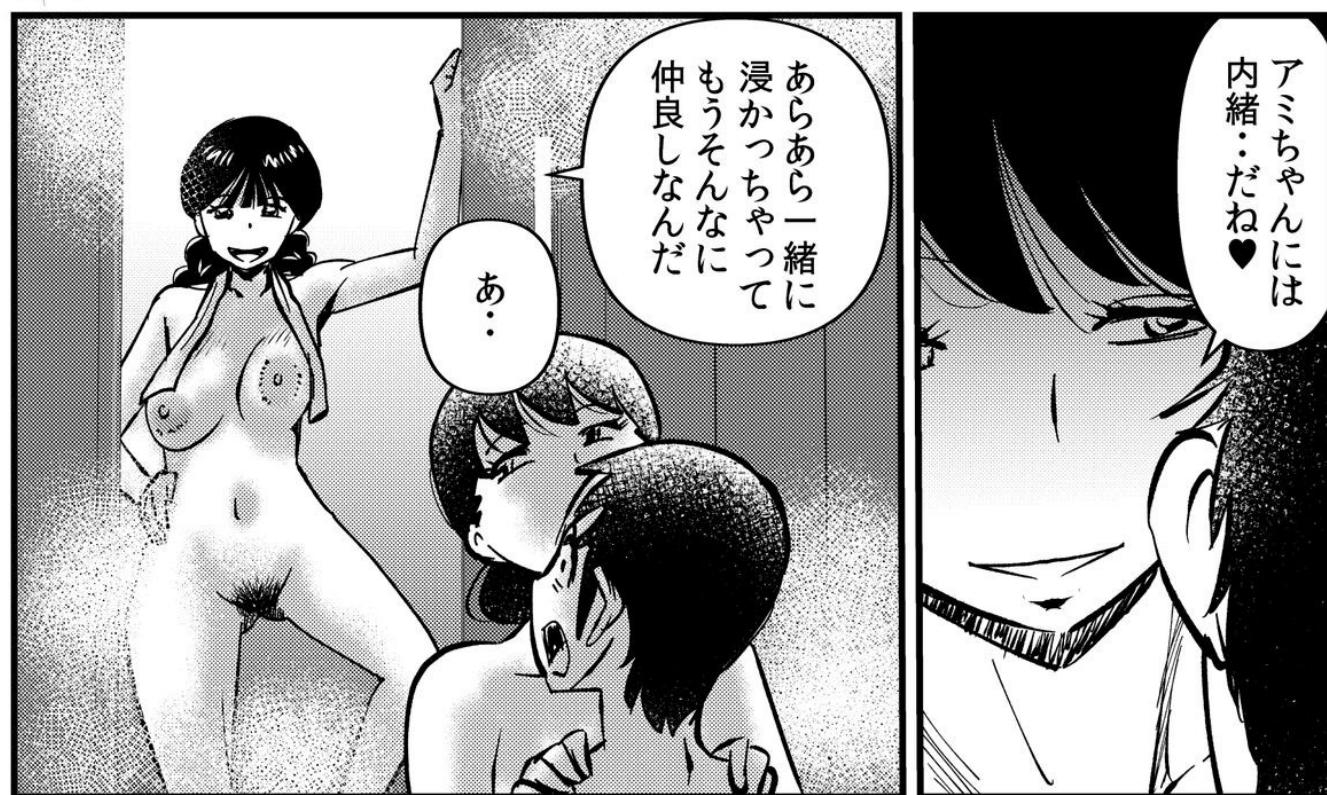
タミもよく
見ておけよ

これが田舎の
常識...なの?

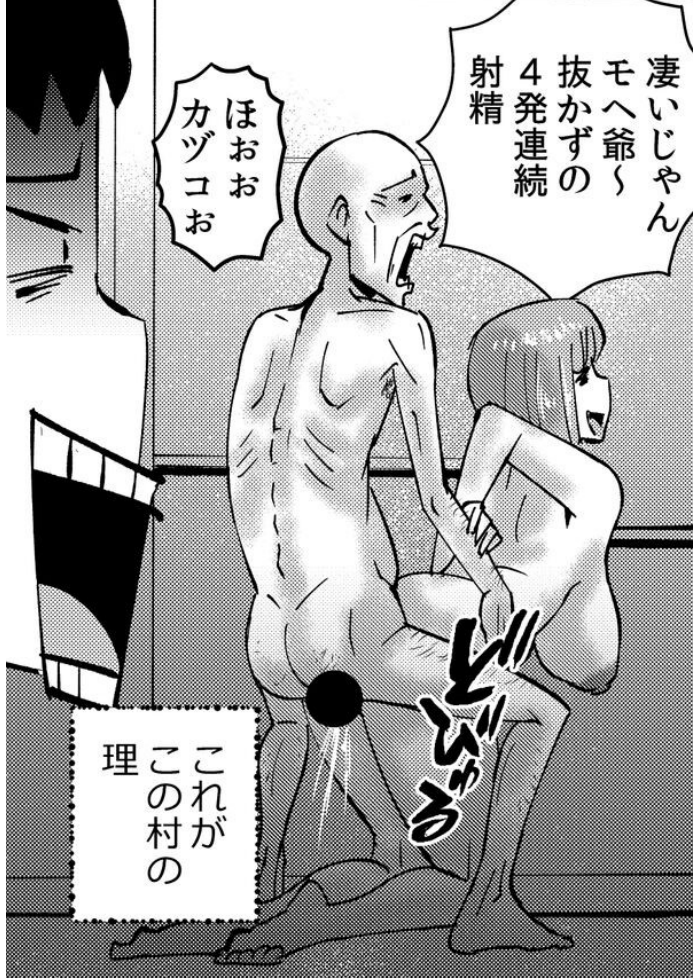
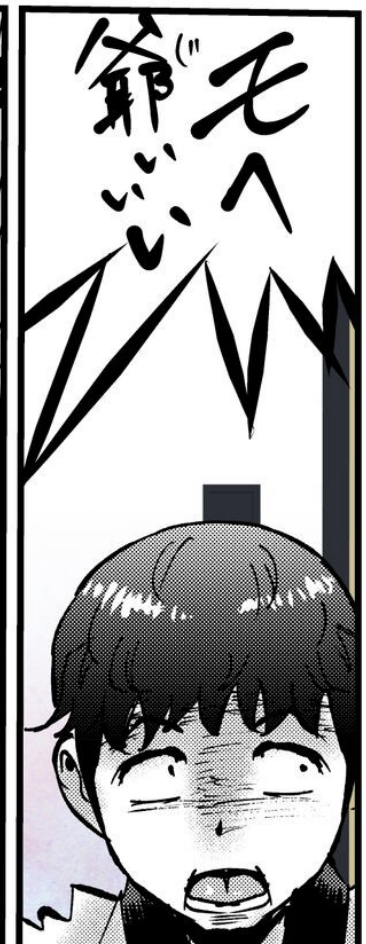
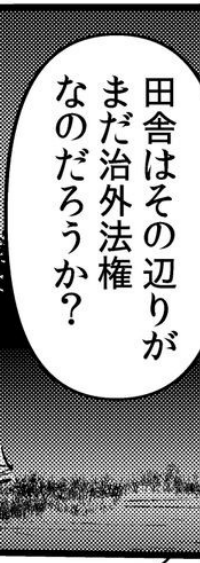


大家族だから
一度に複数で
入らないと
大変ですね









ではワシはひとつ風呂
浴びてこようかのう

ちよつと
待ってね
モへ爺の
処理する
から

服脱いで
そこに
寝転んで

え

上？下？
バック正上位
チンギリ返し
なんでハメたい？

もつとアクロ
バティックな
体位がいい？

外で青姦も
興奮するよ

いや僕は
そんなつもりで

遠慮するな若いの
へーれへーれ

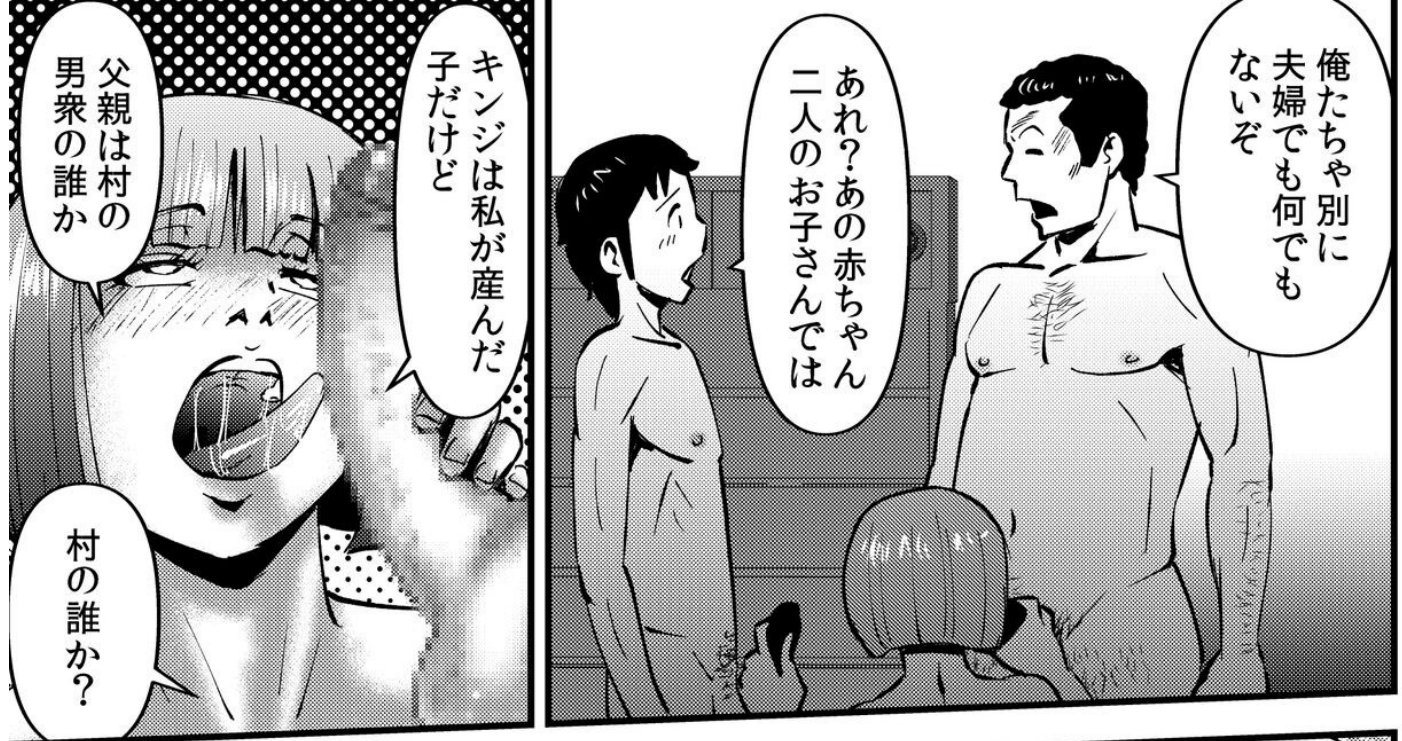
ふわっ

キンジは寝ついた？
布団に寝かせたら

オサム君だっけ
ゴロウと3Pでも
いいよね

あ、あの
折角の夫婦
水入らずの処
お邪魔だし：

夫婦？



俺たちや別に
夫婦でも何でも
ないぞ

あれ？あの赤ちゃん
二人のお子さんでは

キンジは私が産んだ
子だけど

父親は村の
男衆の誰か

村の誰か？



この村の子供はね
誰が産んでも
みんなが親代わり

村全体で
育ててるの

村人同士誰とでも
まぐわうし
父親が誰かなんて
いちいち気にしない

常識を遙かに
上回るこの倫理観



あの因みに皆さん
アミちゃんとは
ご親戚：ですよね？

？

あー：アンタもしや
アミから何も聞かされず
この村に来た？



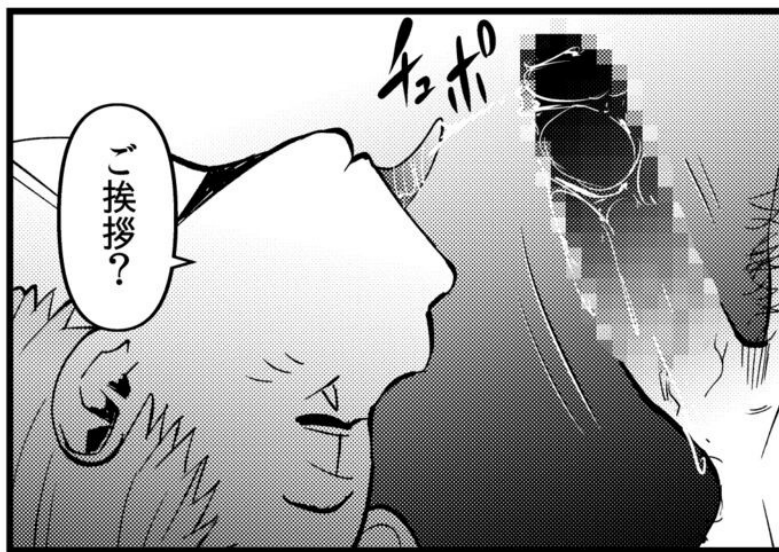
この家には
ほぼ血縁者は
おらん

他の家も同様
村が決めた
アカの他人が同居
するコミュニティ

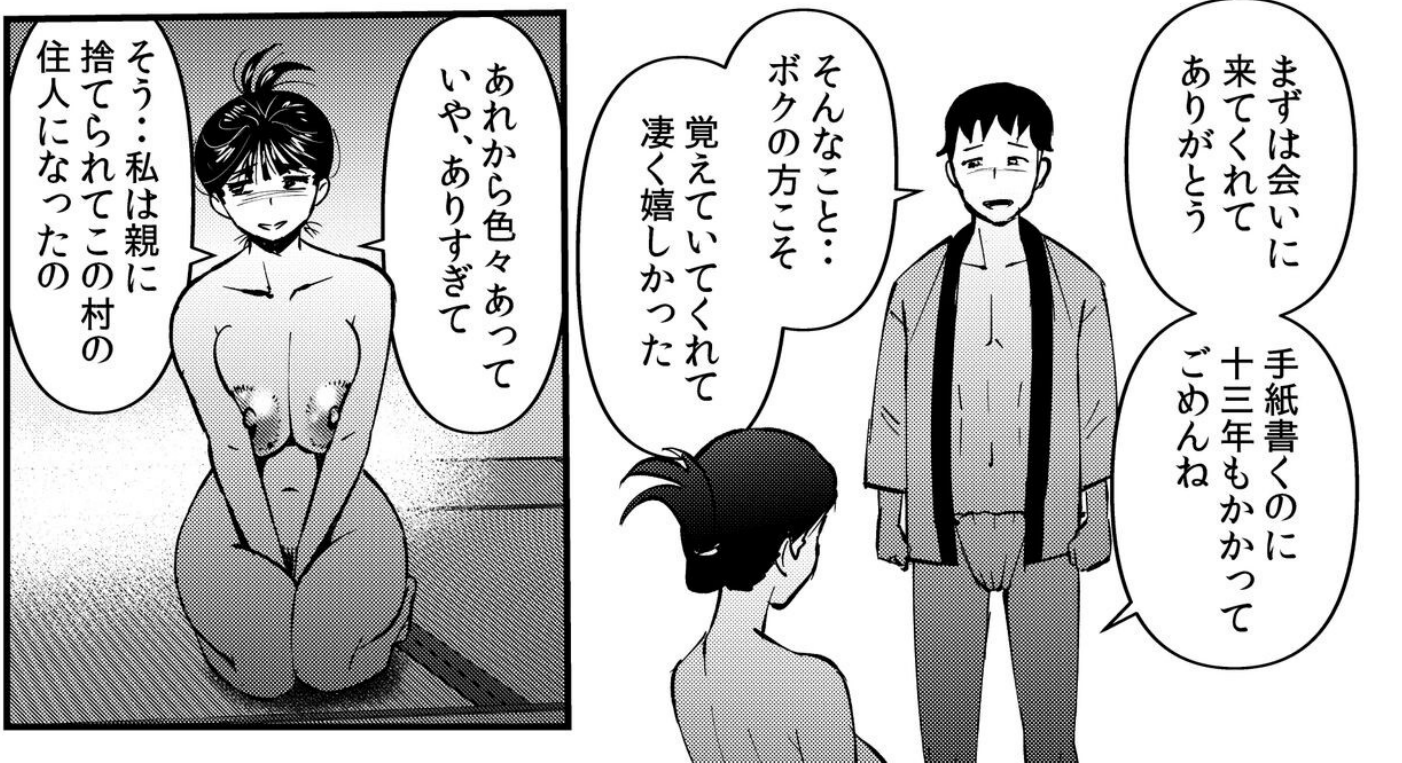
アカの
他人ッ

その昔、人口減少で
村の存続が危ぶまれた時代
時の村長が村おこしで
始めた村人倍增計画でな

村おこし…







私の家は父親の
事業の失敗もあって
貧しい家庭だった

街の人たちから
後ろ指を
指されるほどの
貧困家庭

それもあり両親は人目を
避ける生活をしていたわ

それでアミちゃんの
両親を見た事が
無かったのか

そんな中、両親は
この村の存在を知り
引越すことを決めた
みたい

本当は誰にも悟られず
ひっそりあの街を去る
つもりだったけど

どうしても貴方だけには
お別れを言いたくて

オサム君
向こう
お手紙

唯一わだかまり無く
お友達でいてくれた
オサム君にはちゃんと
挨拶したくて無理矢理
寄って貰ったの

けれど、別離は
それだけじゃ
なかった

両親は村長との
会話を終えると

私とわずかな荷物を
残し、そのまま何処かへ
消えてしまった

これが紛れもない
私の事実

無事に村に着き
ホッとしたのも
束の間：

まさか
あの引越しの
裏にこんな
事実があつた
なんて

そんな
ことって：







そっかさっかさ
言ってなかったね
私、十七であの子を
産んだの



アウ...

アウ...



本来子供作るのは
成人式を終えた女性と
村で定められてるん
だけれど

ま、フライングは
よくある話だから
気にしないで

そんなことより

どうしてオサム君を
この時期この村に
呼んだのかを
説明しないとね



裳着の儀式と言って
世間で言う成人式

この村の風習には
成人した女が必ず
通る儀式があるの



お陰様で
今年二十歳

村の住人になって十三年
すったもんだがあっただけ



裳着の儀
公家の女子が成長して
初めて裳を着ける式



腰巻みたいな物を
纏う儀式がこの村でも
あるんだね

それをベースにした
村ならではのお祭

そんな大事な祭事に
僕みたいな部外者が
参加してもいいの？

本当は村人だけで
行うんだけど
村長に頼んで特別に
許可して貰った

案の定、成長した
オサム君
安心したわ
これなら十分に：

十分？

あとはもう少し
この村に慣れが
必要な

まあ今日来た
ばっかだし：

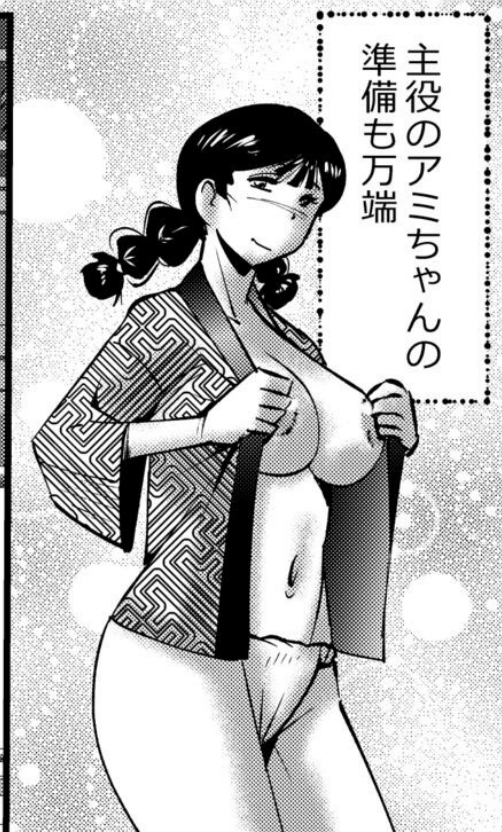
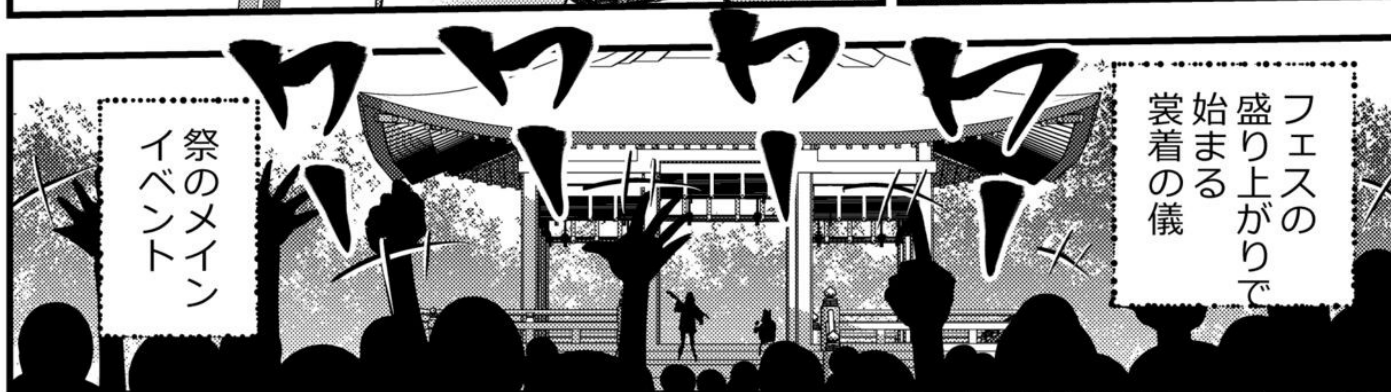
ウフフ

祭事は3日後
それまでには：

くちゅ

パ
ン
パ
ン
パ
ン





しかし彼女が纏うのは裳では無く



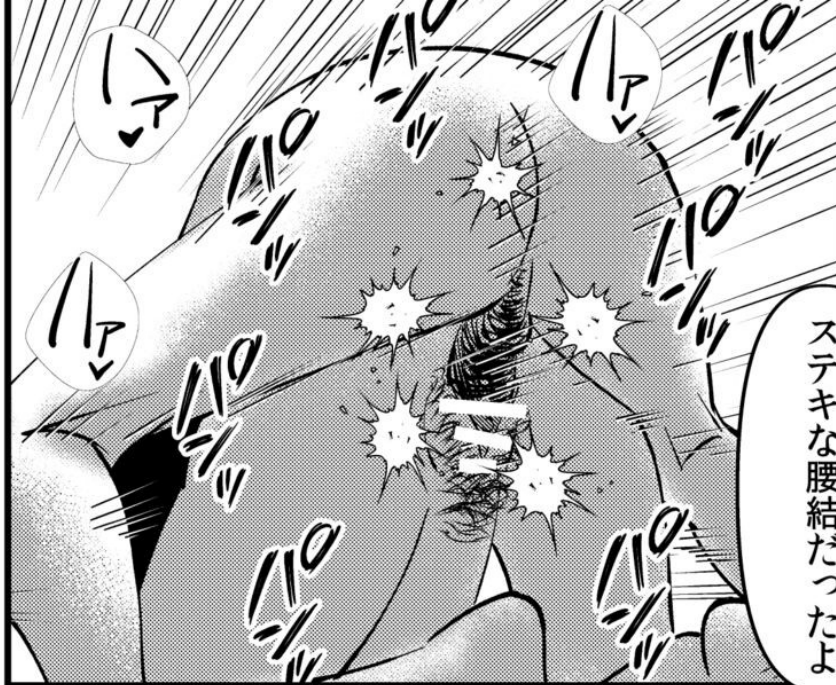
この後も
村の男衆に
腰結ブツカケ
され続ける
アミちゃん
でした





今日は有難う
お疲れ様だったね

ステキな腰結だったよ



本当にオサム君を
呼んで良かった

は・う・う

引越しの日にくれた
あの石があったから
貴方を忘れずに済んだ



川で拾ったただの石なのに

私たちの意思を
繋ぎとめてくれた
大事な宝石

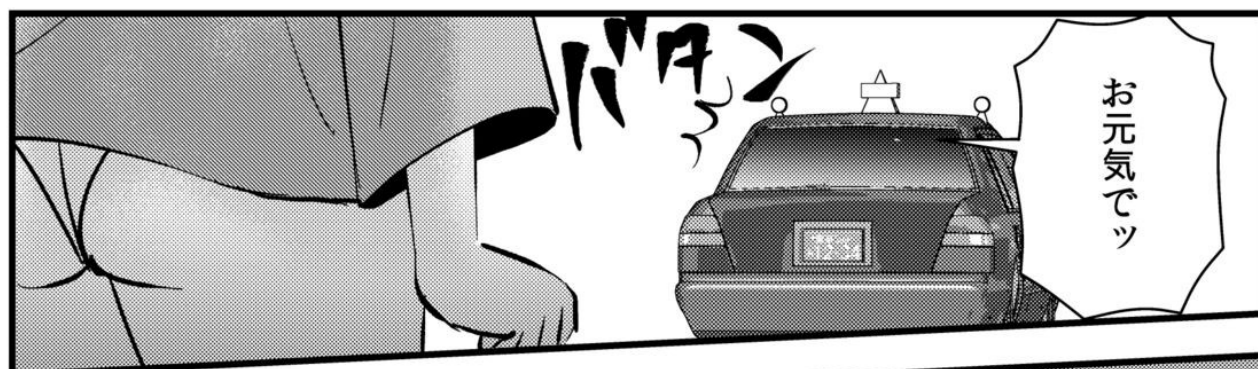
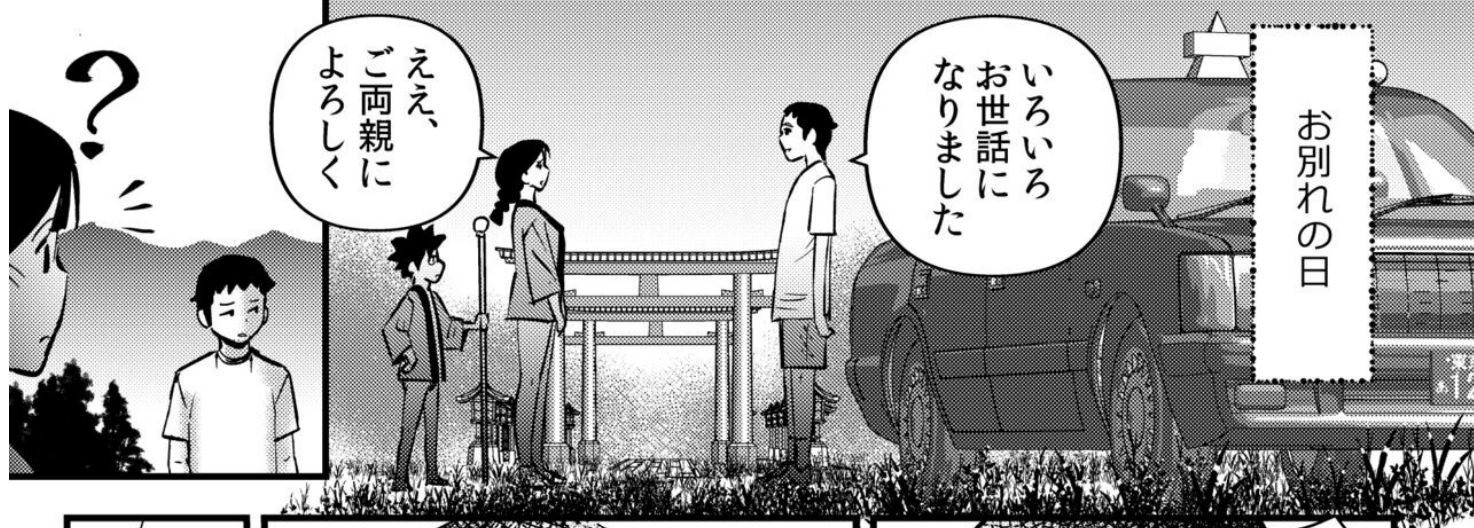
ボクの方こそ
止まった針を
動かしてくれて

ありがとう

一生忘れない
宝物にするよ

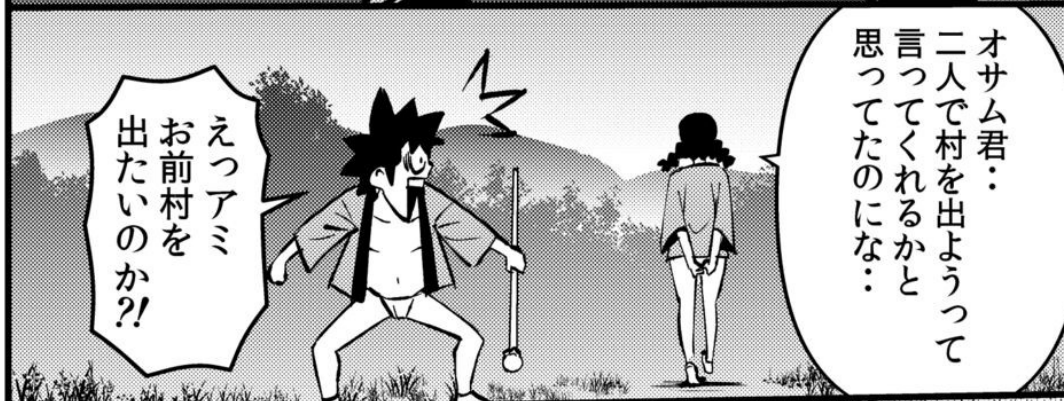
そして最後の夜が更け







どうした
大きなため息
ついて



オサム君：
二人で村を出ようって
言ってくれるかと
思ってたのにな！

えっアミ
お前村を
出たいのか？！



バカ！冗談よ

イッペイやタミの居る
この村を出てくワケが
ないでしょ

アミいゝ



装着も済ませたし
これからもつともつと
人を増やして村を
盛り上げていかないと

おう！！

ゴロイ

イッペイ：
将来私との子
何人欲しい？

あ、うーん
野球したい
から9：

あら大変：
いいよ
産んだげる

アミちゃんの引越し先 / おしまい